

第3回笠岡市総合計画審議会議事要点録

- 日 時：平成29年1月27日（金）10：00～11：55
- 場 所：笠岡市役所分庁第4 2階大会議室
- 出席委員：15名
小林会長，大嶋副会長，浅野委員，遠藤委員，大山委員，藏本委員，齋藤（永）委員，谷川委員，鳴本委員，西村委員，長谷川委員，原田委員，東山委員，水野委員，三谷委員
- 欠席委員：3名 齋藤（一）委員，玉置委員，野本委員
- 内 容：下記のとおり

1 議 事

■協議事項に入る前に，これまでに委員から書面で頂戴した意見一覧を配布し，主だった点について各部長から口頭で考え方を説明した。

<企業誘致について>

企業誘致は，徐々に成果が上がってきている。笠岡市は分譲地を持っておらず，県分譲地に誘致しており，それとは別に，遊休状態の民有地を斡旋している。また，市としては，民間事業者の活力で造成する新たな工業団地の候補地を，将来に向けて探している。こうした諸々の対応をしながら1社でも多くの企業に来ていただく努力をしている。ただ，来ていただく企業には多額の奨励金を支払うことになるため，市の財政状況を考慮すれば，金で引きつけるという考え方を改め，交通アクセスの向上や土地利用規制の緩和などの方向にシフトしていく必要がある。

<駅周辺再開発の状況>

公共施設の移転が適切なものか等，市民の意向を把握するためのアンケート調査を実施している。結果として市民ニーズがあれば市は努力すべきだが，莫大な費用がかかることから費用対効果も考えつつ検討を進めていく。ただ，これまでの経過等を考え合わせると，駅を利用する人の利便性を高めるために南口の整備は必要と考えている。これを核として新しい人の流れを創造し，新しい街並みに誘導していく必要がある。アンケート結果が出た時点で検討会を実施して，考え方を皆さんにお知らせしたい。

<水道料金の値下げについて>

笠岡市の水道事業は笠岡市の人口で支えられており，人口減少に伴い，給水量が減少して料金収入も減少すると予想されている。一方，水道施設は法定耐用年数を迎えたり，既に経過したものが増加傾向にある。こうした水道施設の維持管理や更新・耐震化費用

などが必要とされることから、水道施設の中長期の更新計画を策定する中で更新費用の平準化に取り組んでいる。笠岡市では人口減少に歯止めをかけて笠岡市への流入人口の増加を促し、水道事業を支える人口を増やしたいと考えている。これを実現するための施策として、近隣市町と比較して割高と言われている水道料金の引き下げに向けて、早急な料金改定を目指している。また、以前は施設の更新は法定耐用年数で行っていたが、近年では過去の使用実績に照らし、法定耐用年数を超えての使用も考慮しながら更新費用を算定するという流れに変わってきており、笠岡市でもその方向で検討作業をしている。そういった作業を行いながら、今後の経営予測を立てて、安全安心・強靱・持続可能な水道事業を確保した上で適切な料金設定を行う。

<子育て施策について>

保育所保育料について、笠岡市では平成28年度から第2子についても50%の市独自の減免を行っている。

現在の施設の状況として、民間の保育所は、新築や建て替え等により定員の増加を見込んでいる。市では神島保育所の移転場所が決まったので、来年度から事業が動き出す。さらに新規事業として、事業者内保育が2箇所新たにできている。

また、学童保育については施設改修に取り組んでいる。国や県からの補助金だけでは少ない部分については、市独自で上乗せする施策を行っている。

<委員意見の要旨>

委員：土地利用規制はどう緩和するのか。

建設産業部長：特定用途制限地域の規制緩和を考えている。また、農振農用地の関係で言うと、長期間耕作放棄地である農地は農振農用地から除外して一般の農地に変えていく必要があると考える。

委員：駅周辺開発について、土地の確保はできるのか。また総合計画に盛り込むのか。

建設産業部長：駅周辺開発について市長が所信表明で述べたのは事実だが、多額の費用をかけてやっていくかは別問題で、市民の意向を把握することが必要。最終的にどういう公共施設が必要か等の方針が出た後で土地の確保を図るわけだが、新しい土地を創造する手法も今後考えていかなければならない。

委員：企業を誘致することでどれくらいの費用がかかるのか。

建設産業部長：多額の奨励金が必要だが、企業の投資額によって異なる。

■協議事項（1）第7次笠岡市総合計画の基本構想案について

資料に基づき、基本構想案について事務局から説明。

<委員意見の要旨>

委員：今までの総合計画と何が違うのか、どういう覚悟を持って進めていくのかという決意等がもう少し盛り込まれていかないといけない。

委員：お金がない、土地がないなど欠点ばかりが先行している。水道料金にしても、笠岡市のこれまでの伝統や経過を、私達が周囲の若者に教えていかなければいけない。笠岡市にはインターや港、農道空港等の立派な施設がそろっている。欠点ばかり挙げるのではなく、良いところを前面に出して長所を伸ばすべき。

副市長：今日議論するのは個別具体的な事業でない。今後10年を見据えてまさに明るい未来に向かって行こうとか、笠岡にある宝を活かしてそれなりの人口でも楽しく快適に過ごせるという前向きな考えで、どういう理念を作っていくのかを議論させていただきたいと思ってこのようなたたき台を作らせていただいている。更にいただいたご意見を加えていきたい。

委員：将来ビジョンについて、短く「元気でわくわくするまち笠岡」のようなキャッチフレーズがあっても良い。

委員：リスクがあっても魅力的な笠岡をどう作っていくか、そういう前向きな決意が必要。金がないなら知恵を結集すればよい。

委員：笠岡市民病院が赤字という話がある。笠岡ほど地の利が良く、交通網の発達したところはないのだから、市民病院の存続にこだわらず他の病院に頼れば良いのではないか。

市民病院管理局長：市民病院は現在194床を抱えており、常駐の医師が9名で、退職により募集してもなかなか来てくれないという状況。外来患者は1日約200名、入院患者数は1日平均で85人くらい。医療収益がここ数年大幅に落ち込んでおり、累積欠損金は約28億円という厳しい状況が続いている。現在、経営改善のための改革プランを作って病院の経営を立て直していくため、準備を進めている。

副市長：定住の面から考えても、市民病院がなくなるということは街が衰退しているというイメージを与えてしまう面もある。経営状況を見直しながら総合的に考えていきたい。

委員：観光について、積極的な内容が盛り込まれたら良いと思う。

委員：インバウンドの数は増えており、倉敷、福山両市との広域連携で、どういう観光ルートを設定していくかが鍵になると思う。行政にはもっと力を入れて欲しい。また、市内事業者の廃業が年々増えている。金融機関を中心に市も含めて一体となり創業をサポートしているが、大きな成果がない。だからこそ観光客が増えるよう取り組んで

いくべき。

建設産業部長：インバウンドについては、顧客に応じた対策を打っていかないといけない。笠岡諸島が1番の観光資源である。それとは別に笠岡ベイファームに90万人近くのお客さんが来ているものの、笠岡市に完全には取り込めていない。そこでバスによる市内観光ルートについて検討している。また、事業者を応援する制度をいろいろ作っており、例えば、北木の丁場の跡地を観光拠点として整備する支援を行うなどしている。更に他にも、地元の方と協議して潜在的なものを掘り起こすなど、新たな観光資源を作っていかないといけないと思っている。

委員：地域の活動をする中で初めて気付いたが、地域外の人目から見れば自分たちは素晴らしいものを持っている。そして、行政だけに頼るのでなく、自分たちから発信することが大事。それによって行政も協力してくれる。

委員：笠岡の人口がどんどん減っているのは寂しい。島の活性化は必要なこと。積極的な振興策をとっていただきたい。

委員：体験型観光ができれば良い。将来ビジョンの「進化する」がカブトガニのイメージと重なり、良いと思う。基本理念の「満足感を実感・体感できる」が頭にずっと入ってきにくいと感じる。

委員：白石の国際交流ヴィラを使った観光振興は考えてないか。

建設産業部長：今、ヴィラをご利用の方はどちらかと言うとヨーロッパ系の方で、安い料金で長時間滞在しておられる。現在はそれに応じた施策を講じていないのが実情。宿泊場所に対してどういうニーズがあるのか、そのニーズにどうお答えするのかを考えているところ。

委員：障がいの子どものことは「輝く」の戦略に入らないのか。

政策部長：「輝く」の方が人づくり、人を育てるということに重点を置いており、「安らぐ」の方には福祉全般が入るということで、障がい児の方のことはこちらに残している。子どもの育ち全体に対しては、人づくりに分類するという考え方。子どものことに関しては、福祉と考えるか人を育てると考えるかいろいろな切り口があると思うが、7次の計画では輝く人材で笠岡市をもっと活性化していくという観点からこちらに入れている。

健康福祉部長：障がい児に関しても、個別案件では子育て部分に入ってくることもある。

2 その他

次回の審議会は4月中の開催を予定している。